

順位	配信日	大学名	所在地	タイトル
1	7/16	大阪経済大学	大阪	7、8月の4日間、「OPEN CAMPUS 2024 ～経済大学から色づく未来へ～」を開催。
2	7/18	環太平洋大学	岡山	学生が運営する「夢を語れるカフェ」が7月に開店。現代経営学科の授業の一環で、地元食材やジビエ内のメニュー、厳選したコーヒーなどを提供。地域の人々の交流イベントも企画。
3	7/1	東京医科大学	東京	7、8月の2日間、オープンキャンパスを開催。学生による医療体験イベント（予約制）も。
4	6/27	東洋英和女学院大学	神奈川	2026年4月、現行の2学部4学科から人間社会学部（仮称）の1学部3学科に再編を構想中。
5	7/19	大阪経済大学	大阪	同大の新CM「生き続ける学びがここに「就職力」篇」が関西地区などで放映中。企業の人事担当者が評価する「就職力ランキング」（日経HR、日本経済新聞調べ）で西日本私大1位に。
6	7/9	東京都市大学	東京	工学院大、芝浦工業大、東京電機大と「東京理工系4大学（四工大）合同説明会」を8月31日に千葉市、9月7日に横浜市、9月16日にさいたま市で開催（要事前申し込み）。
7	7/18	京都産業大学	京都	同大神山天文台が京都・大学ミュージアム連携に加盟。京都市の観光振興、地域活性化に寄与。
8	6/28	武庫川女子大学	兵庫	環境共生学部開設記念シンポジウムを7月に開催。タレントの国分太一さんが登壇。
9	6/21	大東文化大学	東京	25年度入試から「学校推薦型選抜（公募制 基礎学力テスト型）」を導入。他大学との併願も可能。
10	6/21	跡見学園女子大学	東京	25年度入試から特待生選抜入試試験を新設。成績上位者の入学年次の経済的負担を軽減。
11	7/10	東洋学園大学	東京	7、8月に「TOGAKU OPEN CAMPUS 2024」を実施。20時まで開催の「ナイトオーケストラ」も。
12	7/4	北星学園大学	北海道	27年度の「総合情報学部（仮称）」設置構想が文部科学省「大学・高専機能強化支援事業」に選定。
13	7/9	環太平洋大学	岡山	競技スポーツ科学科が授業でトップアスリートによる講演会を定期的に開催。男子ハンドボールの宮崎大輔氏、木松誠氏や女子バスケットボール日本代表の高田真希選手、サッカー日本代表の岡崎慎司らが登壇。
14	6/21	近畿大学	大阪	25年度入試から経済学部で起業志望者対象の総合型選抜入試を新設。事業・活動計画に関するプレゼンと口頭試問で選抜し、入学予定者と同大の起業支援プログラムの一部や在学生起業家などの交流の場を提供。
15	7/1	北里大学	神奈川	7月1日付で、学校法人北里研究所の理事長に浅利靖氏が、北里大学学長に砂塚敏明氏が就任。
16	6/28	跡見学園女子大学	東京	26年度の「情報芸術学部（仮称）」設置構想が文科省「大学・高専機能強化支援事業」に選定。
17	7/9	清泉女子大学	東京	地球市民科学のカリキュラム顧問に、ミネルバジャパン代表の坂江裕美氏が就任。新カリキュラムに関する研究プロジェクトに参加し、AIを活用する「コンセプト教育」の実装を目指す。
18	7/11	大妻女子大学	東京	同大被服学科のゼミ生が立ち上げたファッションブランド「m.r.tokyo（マル・トウキョウ）」から、ディズニーマニエーション映画「おしなれキャット」に登場する「マリ」のDisneyコレクションが発売。
19	6/27	跡見学園女子大学	東京	ホームページのデザインを一新。多彩な学びの魅力を伝える全学科の紹介動画を公開。
20	6/27	法政大学	東京	電動トゥックのレンタルサービスにより、学生の登下校時間の有効活用や通学における移動体験の価値向上に関するニーズ調査を行う実証実験を、eMoBi、JR東日本スマートアップと連携で実施。
21	7/10	東京都市大学	東京	8月にトークイベント「喫茶室かぐら 作家と学者が出会うところ」を開催。芥川賞作家の小川洋子氏、天文学者の渡部潤一氏、2015年ノーベル物理学賞受賞者でKAGRA責任者の梶田隆章氏が登壇。
22	7/8	千葉商科大学	千葉	7月のオープンキャンパスで「未来に向け、何をすべきか」を保護者と共に考える特別プログラムを実施。
23	7/11	青山学院大学	東京	11月30日に青山学院創立150周年記念「青山ビジネスプランコンテスト」を開催。
24	7/5	京都橋大学	京都	26年度の「デジタルメディア学部（仮称）」「工学部ロボティクス学科（仮称）」設置構想が文科省「大学・高専機能強化支援事業」に選定。また同年、健康科学部に臨床工学科（仮称）を設置構想中。
25	7/16	藍野大学	大阪	食品ロス削減などに取り組む同大がガイドブックを制作。SDGsに取り組む学生らの意見を取り入れた。
26	6/28	広島国際大学	広島	地域貢献に取り組む同大の「応国市民大学」が7月に、小中学生向け「科学・ものづくり体験」講座を開催。
27	6/24	城西大学	埼玉	24年度新入生から必修の学科横断的な文理融合アクティブラーニング型授業「協働力体験演習」を開講。
28	7/9	清泉女子大学	東京	授業料、施設費を最長4年免除する総合型選抜「学費免除型入試」をリニューアル。25年度入試から選考方法を基礎学力試験と口頭試問に緩和。試験時間は90分から60分に。
29	7/11	酪農学園大学	北海道	バクテリアファージの研究者でもある岩野英知学長が、7月のONHKエテレ「サイエンスZERO」に出演。
30	7/11	日本女子大学	東京	地方からの入学者に原則4年間の学費等を給付する給付奨学金「桜楓樹給付奨学金」を25年度から開始。総合型選抜受験者を対象に、書類と面接の選考で採用者を決定。

※タイトルは一部編集しています。詳細は「大学プレスセンター」のホームページ（<https://www.u-presscenter.jp/>）をご覧ください。

「卒業後」を生き抜く力を養成 成長分野の学部新設も相次ぐ

急速に進む少子化がもたらすのは、大学運営の危機だけではない。縮小社会で大きく変化する「卒業後、世界」を生き抜く力を養うことが、学生にも求められている。



学部再編を構想中の東洋英和女学院大（写真はキャンパスの中心にある礼拝堂）

各学科ともコースを設置し、コースごとの方向性やカリキュラムを明確にすることで、自身の将来像をイメージした進路選択ができる環境を整える。また、学科・コースを超えて異なる領域の科目を組み合わせて学べる領域横断プログラムの導入も予定している。

同大の渡部麻美副学長（教学担当）は「本学の特長である個々の学生に寄り添った教育をさらに強化していく。変化に対応できる軸を育む学びを提供したい」と話す。国内で不足する理系人材を育成する学部の新設も相次ぐ。

文科科学省では23年度から、大学や高等専門学校がデジタルやグ

リーン（環境 など成長分野の学部等の新設や拡充を促進するため、3000億円）の基金を活用して継続的な支援を行う「大学・高専機能強化支援事業」（以下、同事業）を行っている。左側のアクセスランキングの表では、京都橋大、武庫川女子大が23年度、北星学園大、跡見学園女子大が24年度の同事業に選定された。

このうち、京都橋大（京都市）は26年4月に設置構想中のデジタルメディア学部 工学部ロボティクス学科が選定。また同年、健康科学部に臨床工学科の設置（新設学部・学科はいずれも仮称）を構想している（24位）。

AI（人工知能）時代の社会課題解決に寄与できる人材の養成に注力する同大は、21年の工学部設置を皮切りに、24年は大学院情報学研究科を開設。新学部・学科開設に向けては今年、AIの第一人者である松原仁教授が着任した。今後、多彩な専門を持つ教員約40人が着任する予定としている。また、最新のAI、IT（情報技術）を軸とした地上8階、地下1階の

教育研究拠点「ACADEMIC TERRACE（仮称）」が着工した。地球環境をめぐる課題に新たな

発想で挑む人材を育成するため、武庫川女子大（兵庫県西宮市）は25年4月、女子大初の環境共生学部を開設する。7月にはタレントで株式会社TOKIO副社長の国分太一さんを招き、同学部開設記念シンポジウム「地球がよるこ明日をつくる——環境共生」という約束——を開催した（8位）。

同大は全国の女工大で最多の約1万人の学生を数え、近年は建築学部、経営学部を開設するなど、12学部20学科を擁する総合大学として女性の活躍の場を広げてきた。新学部では自然科学系学部の拠点・浜甲子園キャンパスで温室効果ガスの排出や生物多様性の減少、海洋・土壌汚染など、地球が抱えるさまざまな課題に迫る。

北星学園大（札幌市）は、27年度に開設を目指す総合情報学部（仮称・設置構想中）が道内の文系私立大学として初めて同事業に選定された（12位）。

北海道は全国の中でも人口減

少・高齢化が急速に進行しており、多様な課題が顕在化している。道が策定した「北海道総合計画」では、課題解決に向けたICT（情報通信技術）やAIなどの未来技術の活用や大手半導体工場の北海道進出を契機としたデジタル人材の育成・確保の重要性が示されている。今回の理系学部の設置構想を通じて、社会や地域の課題を解決する人材の育成を目指す。

跡見学園女子大（東京都文京区）は、26年度の開設を目指す情報芸術学部（仮称・設置構想中）が同事業に選定された16位。

新学部はデータサイエンス（情報科学）とメディアアート（芸術）の両分野をかけた新しいコンセプトで展開。情報テクノロジーや映像・音響制作、文化事業などを担う先端企業・団体とのインタシンシップやPBL（問題解決型学習）といった産学連携教育を導入し、AIなど最新のテクノロジーを駆使して創造するサイエンスアートのクリエイターやプログラマーなどの人材輩出を目指す。大学通信・玉木栄一、上道敬子